

第2次豊中市地球温暖化防止地域計画（素案）の概要

序章 地球温暖化とは

地球温暖化のリスク

- 産業の発展に伴い石炭や石油などの化石燃料が大量に使用されるようになった結果、二酸化炭素が増加し、大気中の温室効果ガスのバランスが崩れ始めています。
- 温室効果ガスが多すぎると、地表面から宇宙へ放出される熱が大気中にとどまりやすくなるため、地球全体の気温が上昇し、様々な影響が生じます。
- 海面上昇、生態系への影響、食糧不足などのリスクが高まるほか、気象災害、熱中症の増加、蚊が媒介する感染症の侵入などが懸念されます。

第1章 第2次豊中市地球温暖化防止地域計画策定にあたって

世界の動き・国の目標

- 温室効果ガスの増加を抑止するための世界的な枠組みである「パリ協定」が、平成27年（2015年）に採択されました。
- 日本は温室効果ガスの削減目標として「平成42年度（2030年度）に平成25年度（2013年度）比でマイナス26.0%の水準とする」ことを定め、その実現のため平成28年（2016年）に「地球温暖化対策計画」を策定しました。

国の温室効果ガス削減目標

短期（2020年度）	中期（2030年度）	長期（2050年）
2005年度比で3.8%削減	2013年度比で26.0%削減	80%削減

本計画の目標

- 豊中市では、前計画「豊中市地球温暖化防止地域計画」において、「平成62年度（2050年度）に基準年度（平成2年度（1990年度））比70%削減」という長期的な目標を設定しており、今回の計画においてもその考え方を踏襲して目標を設定しています。

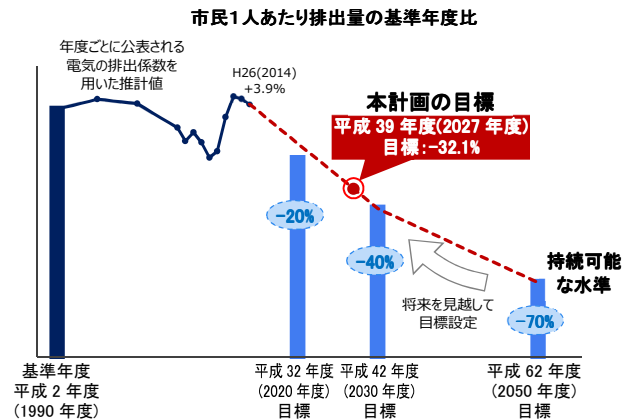
本計画の期間と目標

本計画の期間

平成30年度（2018年度）～平成39年度（2027年度）

本計画の目標

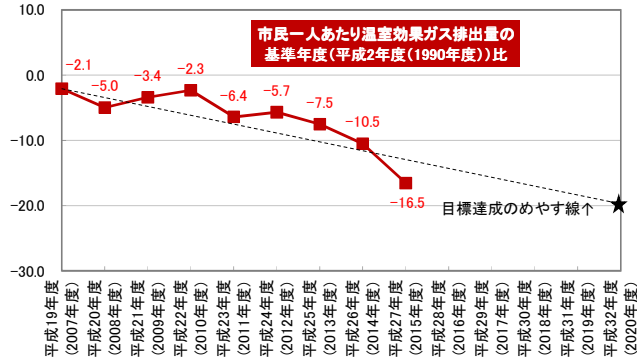
市民一人あたり温室効果ガス排出量を、平成2年度（1990年度）比で平成39年度（2027年度）に32.1%削減、平成62年度（2050年度）に70%削減



本市のこれまでの温室効果ガス削減目標と推移

これまでの目標

平成32年度（2020年度）に、市民一人あたり温室効果ガス排出量を、平成2年度（1990年度）比20%削減



本市のこれまでの主な温暖化対策

家庭の省エネ・創エネ化	事業所の省エネ・創エネ化	学校の省エネ・創エネ化	車からのCO ₂ 排出抑制	環境に優しいライフスタイルへの変換	ごみの減量
<ul style="list-style-type: none"> 省エネ相談会、家電の省エネ診断 見える化機器を活用した省エネ啓発 住宅の省エネ診断 家庭用燃料電池システム設置補助 住宅用再生可能エネルギーシステム設置補助 など 	<ul style="list-style-type: none"> 事業所向け省エネ診断 市有施設の屋根貸しによる太陽光発電システム設置 など 	<ul style="list-style-type: none"> 学校等における光熱水費削減還元制度の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 交通環境学習 コミュニティバスの実証運行 バス停の環境整備に関する補助 バスロケーションシステム導入補助 電気自動車用急速充電器の設置 自転車通行空間整備 など 	<ul style="list-style-type: none"> エコポイント「とよか」の実施 省エネ相談会の開催 クールビズ・ウォームビズの呼びかけ など 	<ul style="list-style-type: none"> 豊中エコショップ制度 プラスチック製容器包装の分別回収 レジ袋削減協定 集団回収の支援 など

第2章 豊中市で展開する地球温暖化対策

豊中市の温暖化対策の視点

- 市が持つ様々な地域特性を強み（特長）として最大限活用しながら温暖化対策に取り組みます。

豊中の特長①

豊富な住宅ストック

すまいを省エネ・創エネ化し、環境にやさしく魅力的なまちにしよう

高効率な省エネルギー機器への買い換え促進	高効率給湯器の導入促進 高効率照明の導入促進 家電製品の省エネ診断の活用促進
住宅の断熱化など省エネルギー性能の向上	住宅の省エネルギー性能の向上（新築・既築） 住宅の省エネ診断の活用促進
再生可能エネルギーの活用	太陽光など再生可能エネルギーの活用促進

豊中の特長②

省エネ・創エネを推進するまち

すぐれた技術や取組みを取り入れ、事業所等の省エネ・創エネ化をめざそう

高効率なエネルギーシステムの導入	コージェネレーションシステム、ヒートポンプ等の高効率なエネルギーシステムの導入 E S C O（エスコ）事業の推進
エネルギー管理の徹底	事業所向け省エネ診断やコンサルティングの活用促進 エネルギー管理の徹底
事業所建物の断熱化など省エネルギー性能の向上	低炭素建築物認定制度 環境配慮指針の運用
再生可能エネルギーの活用	太陽光など再生可能エネルギーの活用促進
市の事務事業における取組み	第4次豊中市地球温暖化対策実行計画の推進

豊中の特長③

充実した公共交通網

マイカーからのCO₂排出を抑制し、環境にやさしい交通をめざそう

公共交通・自転車等の利用促進	電車・バス・自転車の利用 エコ通勤の導入
エコカーへの買い換え	エコカーへの買い換え
エコドライブの実践	エコドライブの実践

豊中の特長④

循環型社会に向けて進むまち

「もったいない」のこころで無駄をなくし、焼却されるごみをへらそう

廃棄物の減量に向けた発生抑制・再使用と質の高いリサイクル（再生利用）の推進	市民・事業者・行政の協働による循環型社会の構築 家庭系ごみ減量等に関する取組み 事業系ごみ減量等に関する取組み
---------------------------------------	---

豊中の特長⑤

さらに進む環境行動

一人ひとりが、環境にやさしいライフスタイルを実践しよう

日常的な省エネルギー行動等の推進	「COOL CHOICE」運動の実践 エネルギー使用量の見える化 多様な参画のしくみづくり 省エネ相談会の活用
環境教育・学習の推進	情報発信の充実 学校・家庭・地域・事業所における環境学習の推進

みんなで一斉に行う取組み

人々に気づきを促し、生活習慣の見直しや省エネ行動への機運を盛り上げる取組みを、みんなで一斉に行います。

夏と冬の取組み	通年の取組み
<ul style="list-style-type: none"> 省エネチャレンジ 打ち水（早朝・夕方） ライトダウン みどりのカーテン わがまち再発見（クールシェア・ウォームシェア） 	<ul style="list-style-type: none"> ノマドカーなど環境にやさしい交通の取組み エコドライブ エコなショッピング 朝活促進
<p>重点的な情報発信 エコショップを通じた情報発信、既存のイベント告知チラシ等を利用した情報発信、子どもや学生に向けた情報発信</p>	

適応策

豊中市においては、台風や集中豪雨等の気象災害、ヒートアイランド現象ともあいまった熱中症の発生増加、空港が立地する地域特性から疫病等の進入等のリスクが懸念されることから、本計画に基づき温室効果ガスの排出削減を推進するとともに、適応策として「水害への備え」、「熱中症対策」、「動物由来感染症等への対策」を進めることとします。

第3章 計画を推進するために

- 本計画は、市民・事業者・NPO・行政が協働とパートナーシップで推進することとします。
- 施策や事業の進捗状況を毎年「とよなかの環境（環境報告書）」において評価し、改善しつつ推進することとします。